

西洋史専攻分野科目

| 授業科目 | 講義題目 | 単位 | 担当教員氏名 | 曜日・講時 | 平成30年度以前入学者 読替先授業科目 |
|---------------|------------------|----|--------|-------------|------------------------|
| 西洋史特論Ⅰ | ソヴェト民主主義と自由 | 2 | 松戸 清裕 | 後期 火曜日 3講時 | 西洋中近世史特論 |
| 西洋史特論Ⅱ | 中世ブリテン諸島の史料と社会 | 2 | 有光 秀行 | 後期 月曜日 4講時 | 西洋中近世史特論 |
| 西洋史特論Ⅲ | 古代地中海世界における神々と社会 | 2 | 長谷川 岳男 | 通年集中 その他 連講 | 古代地中海世界史特論 |
| 西洋史特論Ⅳ | ハプスブルク君主国史研究 | 2 | 篠原 琢 | 通年集中 その他 連講 | 欧米近現代史特論Ⅰ |
| 比較文化史学特論Ⅰ | ソ連現代史研究の諸問題 | 2 | 寺山 恭輔 | 後期 金曜日 2講時 | ユーラシア文化史特論Ⅰ |
| 西洋古代・中世史研究演習Ⅰ | 中世ヨーロッパ史研究 | 2 | 有光 秀行 | 前期 火曜日 4講時 | 古代地中海世界史研究演習Ⅰ |
| 西洋古代・中世史研究演習Ⅱ | 中世ヨーロッパ史研究 | 2 | 有光 秀行 | 後期 火曜日 4講時 | 古代地中海世界史研究演習Ⅱ |
| 西洋古代・中世史研究演習Ⅲ | ヨーロッパ中近世史料研究 | 2 | 有光 秀行 | 前期 月曜日 3講時 | 西洋中近世史研究演習Ⅲ |
| 西洋古代・中世史研究演習Ⅳ | ヨーロッパ中近世史料研究 | 2 | 有光 秀行 | 後期 月曜日 3講時 | 西洋中近世史研究演習Ⅳ |
| 西洋近現代史研究演習Ⅰ | 欧米近現代史研究方法論 | 2 | 浅岡 善治 | 前期 火曜日 3講時 | 欧米近現代史研究演習Ⅲ |
| 西洋近現代史研究演習Ⅱ | 欧米近現代史研究方法論 | 2 | 浅岡 善治 | 後期 月曜日 2講時 | 欧米近現代史研究演習Ⅳ |
| 比較文化史学研究演習Ⅰ | ソ連史文献研究Ⅰ | 2 | 寺山 恭輔 | 前期 金曜日 4講時 | ユーラシア文化史研究演習Ⅰ |
| 比較文化史学研究演習Ⅱ | ソ連史文献研究Ⅱ | 2 | 寺山 恭輔 | 後期 金曜日 4講時 | ユーラシア文化史研究演習Ⅱ |

科目名：西洋史特論 I / European and American History (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：集中 単位数：2

担当教員：松戸 清裕

コード：LM98827 科目ナンバリング：LGH-HIS612J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：西洋中近世史特論】

1. 授業題目：ソヴェト民主主義と自由
2. Course Title (授業題目)：Soviet democracy and freedom
3. 授業の目的と概要：ソヴェト民主主義と自由について検討し、ソ連の歴史と民主主義に関する理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The theme of this course is to deepen understanding of Soviet history and democracy by examining Soviet democracy and freedom.
5. 学習の到達目標：・ソヴェト民主主義について学び、ソ連の歴史に関する理解を深める。
・ソヴェト民主主義とソ連の歴史について学び、民主主義について考える視座を得る。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・To deepen understanding of Soviet history by learning about Soviet democracy.
・To get a perspective to think about democracy by learning about Soviet democracy and Soviet history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
ソ連の通史ではなく、主にスターリン死後からペレストロイカ前夜までを対象時期として、ソヴェト民主主義の理念、制度、実態について論ずる。現在執筆中の原稿に基づくため、構成が前後する可能性がある。

第1回 本講義の内容、狙い、評価方法などの説明
第2回 ソヴェト民主主義の理念
第3回 ソヴェト民主主義の制度
第4回 ソヴェト民主主義における自由
第5回 ソヴェト政権と民意
第6回 前半のまとめ
第7回 「個別救済の制度化」という直接民主主義
第8回 全人民討議
第9回 ソヴェトの選挙
第10回 代議員候補者の選出
第11回 代議員のリコール
第12回 投票用紙への書き込み
第13回 「過度の寛容さ」というリベラリズム
第14回 非自由主義体制下の「自由」
第15回 まとめと評価
8. 成績評価方法：
第15回の授業時間中に理解度を確認する試験をおこなう。100%。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。松戸清裕『ソ連史』（ちくま新書、2011年）、同『ソ連という実験』（筑摩選書、2017年）が参考となる。
10. 授業時間外学習：大学設置基準では授業時間も含めて1単位当たり45時間の学修が求められているが、集中講義のため毎回の講義の前後にこれを満たす予習復習をおこなうことは難しいだろう。このため、前半（6回）と後半（9回）に分けられた講義の間に、前半の復習と後半の予習を兼ねて、上記の2冊に目を通しておくことが望ましい。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
なし。

科目名：西洋史特論Ⅱ／ European and American History (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

semester：2 学期 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LM21405 科目ナンバリング：LGH-HIS613J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：西洋中近世史特論】

1. 授業題目：中世ブリテン諸島の史料と社会
2. Course Title (授業題目)：Sources and society in medieval British Isles
3. 授業の目的と概要：中世ブリテン諸島史の史料と、その歴史学における利用の仕方を、具体的に理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is understanding medieval sources of the British Isles and how to interpret them historically.
5. 学習の到達目標：中世ブリテン諸島史の史料のあり方と、その歴史学における具体的な利用の仕方を、理解できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is understanding medieval sources of the British Isles and how to interpret them historically.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 中世イングランド史の史料とは
 3. 同上
 4. 同上
 5. 同上
 6. 年代記論：『マンと諸島の年代記』を中心に
 7. 同上
 8. 同上
 9. 同上
 10. アイルランドの諸年代記
 11. 同上
 12. 同上
 13. マン島関連の証書
 14. 同上
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業参加状況 (50 パーセント) とレポート (50 パーセント)。
9. 教科書および参考書：

教室で指示します。
10. 授業時間外学習：教室で指示する参考文献を参照しながら、予習・復習を必ずおこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：西洋史特論Ⅲ／ European and American History (Advanced Lecture) III

曜日・講時：通年集中 その他 連講

Semester：集中 単位数：2

担当教員：長谷川 岳男

コード：LM98828 科目ナンバリング：LGH-HIS614J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：古代地中海世界史特論】

1. 授業題目：古代地中海世界における神々と社会
2. Course Title (授業題目)：The Gods and Societies in the Ancient Mediterranean World
3. 授業の目的と概要：ギリシア神話でお馴染みのギリシア・ローマ世界の神々は、一般的な認識での宗教の神（々）とは違い、当時の地中海世界においては生活の現実において重要であった。本講義ではその神々や半神（神々と人間の間の子）が当時、人々にとっていかなる意義を有していたのかを、ギリシア人やローマ人のアイデンティティ形成の視点から説明する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will explain what meaning the Greek and Roman Gods and Heroes had for the ancient Greeks and Romans, especially taking formations of their identities into consideration.
5. 学習の到達目標：・ギリシア神話がいかなるものかを理解できるようになる。
・古代ギリシア・ローマ世界において神々や儀礼が果たした役割が理解できるようになる。
・宗教に関する現代社会との差異から現代社会の特質を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The main objective of the lectures is to draw on students to reconsider their own society in contrast with the ancient Mediterranean societies.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. ギリシア・ローマ神話と古代史研究
 3. 古代世界における神話と宗教 1（神話とは何か?）
 4. 古代世界における神話と宗教 2（近代における神話学の成立）
 5. 古代世界における神話と宗教 3（近年の研究動向）
 6. 古代ギリシア・ローマ世界における縁起話の意義 1（縁起話とは何か?）
 7. 古代ギリシア・ローマ世界における縁起話の意義 2（アルカディアのケース）
 8. 古代ギリシア・ローマ世界における縁起話の意義 3-1（ペルガモンのケース 1）
 9. 古代ギリシア・ローマ世界における縁起話の意義 3-2（ペルガモンのケース 2）
 10. 古代ギリシア・ローマ世界における縁起話の意義 4-1（ローマのケース 1）
 11. 古代ギリシア・ローマ世界における縁起話の意義 4-2（ローマのケース 2）
 12. 古代ギリシア・ローマ世界における縁起話の意義 4-3（ローマのケース 3）
 13. 儀礼とコミュニティ
 14. 古代ギリシア・ローマ社会のアイデンティティ
 15. 総括
8. 成績評価方法：
試験もしくはレポート（第 1 回の講義の際に指示）
9. 教科書および参考書：
教科書：特に指定しない
参考書：適宜、指示する
10. 授業時間外学習：講義後、分からない固有名詞などは最初の講義で指示した事典などで調べることが望ましい。また講義内容をふりかえり、自分なりに現代社会との差異を確認することが必要である。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：西洋史特論Ⅳ／ European and American History (Advanced Lecture) Ⅳ

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：集中 単位数：2

担当教員：篠原 琢

コード：LM98829 科目ナンバリング：LGH-HIS615J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：欧米近現代史特論Ⅰ】

1. 授業題目：ハプスブルク君主国史研究

2. Course Title (授業題目)：History of the Habsburg Monarchy

3. 授業の目的と概要： ハプスブルク帝国の領域は、ハプスブルク帝室が戦争と婚姻によって相続した雑多な諸王国・諸地域の複合的な集積でしかなく、そもそも近代国家を構成する凝集力に欠けており、帝国末期には、国民主義が浸透し、言語紛争が絶えなかった。長い 19 世紀は、そもそも帝国が必然的に衰退する過程であった……。この種の議論は、集権的で同質的な「国民国家」Nation State を近代国家の理念型として想定し、ハプスブルク帝国を近代ヨーロッパの発展から逸脱した「非正常」とみなす視点を暗黙のうちに持っている。帝国の継承諸国では、社会主義体制下も含めて、それぞれの国家の「民族的」性格が強調されたため、この種の歴史観は、当然の前提とみなされることが多かった。

果たして帝国の 19 世紀史をそのように捉えることは妥当だろうか。授業では「中央ヨーロッパ」という歴史的世界の検討を行い、「帝国から国民国家へ」という歴史の方向性を具体的に見直す。ハプスブルク君主国の成立過程を概観した後、さらに若干の理論的・史学的考察を行い、昨年度から引き続き「長い 19 世紀史」のなかで帝国史の再検討を行う。中心的に検討の対象とする地域は、ペーメン（チェコ）諸邦とガリツィア（今日のポーランド南東部からウクライナ西部にかけての地域）である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Habsburg Monarchy was a mere amalgam of different territories acquired and inherited by the dynasty of Habsburgs through marriages and wars. Therefore, it was anachronistic existence by itself, lacking a potentiality to develop to an integrated modern state. The Long Nineteenth century was for it a process of decay leading to an inevitable dissolution, a process driven by nationalism, nationality conflicts... Such an argument is based on a view which presupposes a centralized homogeneous nation-state as a normality of modern state, and depicts history the Habsburg monarchy as an anomaly deviated from the "normal" development of European modernity. As its succeeding states in Central and Eastern Europe legitimates their existing by stressing their "national" characters, such vision of history often constructed basic pattern of historical narrative. Can we still understand history of the Monarchy in such a way? In this course, first, we will briefly sketch a historical region "Central Europe", then the building of the Habsburg monarchy from the Middle age to the Enlightenment. After summarizing historiography of Habsburg monarchy and more important theoretical problems, we will investigate some of the most essential topics of the Monarchy in "the long 19th. century". Following the course last academic year, the main object of the analysis is history of Bohemian Lands and Galicia (today, south-eastern part of Poland and western Ukraine).

5. 学習の到達目標： ハプスブルク君主国の歴史を概観しながら、「国民形成」、ナショナリズム、市民社会、帝國的秩序といったより一般的な歴史的テーマについて再検討を加える。ハプスブルク帝国史研究の現段階を理解するだけでなく、目的論的なヨーロッパ近代史の概念への批判的なアプローチを獲得することが授業の目標である。それを通して、現代世界の問題について、新たな歴史的視点を得ることを目指そう。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：We will survey basic historical development of Habsburg Monarchy in the "long Nineteenth century" from the time of French Revolution to the First World War to analyze more general notions such as nation-building, nationalism, civil society etc. The purpose of the course is not only to understand the most recent trends of historiography on the Monarchy, but also to get critical approach to the teleological concept of modern history of Europe.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一部：ハプスブルク君主国はどのように考えられてきたか

第 1 回：高校世界史と指導要領の中のハプスブルク君主国：高校教科書を中心に、講義で扱う地域（中央ヨーロッパ）がどのようにヨーロッパ史の中に位置づけられているのか、その記述の特徴を検討する。

第 2 回：ヨーロッパ史の中の「中央ヨーロッパ」：「東ヨーロッパ」として語られてきた地域を「中央ヨーロッパ」と捉え直すのはどのような意味があるか、考える。

第 3 回：ハプスブルク君主国の記憶：第一次世界大戦、帝国崩壊後、集合的記憶のなかで、ハプスブルク君主国はどのように想起されてきたか、概観する。

第 4 回：ハプスブルク君主国の 19 世紀史：「短い 20 世紀史」に、ハプスブルク君主国末期の歴史はどのように研究されてきたのか、研究史を振り返りながら、帝国史像を再検討する。

第 5 回：「できごと」としてのネイション-National Indifference 概念の挑戦：ネイションを社会的文脈に依存するものとして考える新しい研究動向を検討する。

第二部：帝国建設への道

第 6 回：ハプスブルク君主国の形成：神聖ローマ帝国とハプスブルク家ハプスブルク家がオーストリア諸邦支配を確立し、ドイツ王・神聖ローマ帝国皇帝位を獲得する過程を概観する。

第 7 回：諸身分と国王：フス戦争期から 30 年戦争にいたる 2 世紀間の君主と諸身分（議会）との緊張関係を宗派関係のなかで考える。そして、30 年戦争期にハプスブルク君主国がどのように国家の凝集力を確保していったのか検討する。

第8回：帝国建設への道：啓蒙改革期以降、諸王国・諸領邦の集合体であったハプスブルク君主国は、国家の支配機構を整えながら、次第に帝国としての体裁を整えていった。啓蒙改革期から19世紀前半までの時期を一体的な帝国建設過程として捉える。

第9回：ハプスブルク君主国と「ドイツ問題」：神聖ローマ帝国末期の「ドイツ政治」とハプスブルク君主国との関係を考える。君主国が帝国建設を模索するなかで、神聖ローマ帝国皇帝としてのハプスブルク君主は普遍的権威と独自の国家像をどのように結びつけようとしていたのか、問いなおす。

第三部：諸国民の社会

第10回：領邦愛国主義・国民文化・人民主権論：1820年代より本格化する「領邦愛国主義 Landespatriotismus」の生成・変容と、主権者としての「国民」の構築を検討する。政治的主体としての「国民」は帝国建設とどのような関係を取り結ぼうとしたのかを問いの中心とする。

第11回：「諸国民の春」1848年革命：1848年革命は、諸国民の社会を帝国国制にどのように位置づけるべきかを問題にしながら、帝国建設の方向性を改めて問い直すものだった。「革命」は敗北に終わったが、変化は不可逆的だった。革命のもたらした変化を帝国形成史のなかに位置づけ直す。

第12回：バーメン諸邦における「言語闘争」1：バーメン諸邦は帝国史における「民族問題 Nationalitätenfrage」の焦点であった。言語問題は帝国史研究にどのように位置づけ直されるだろうか。また、ナショナリストの活動は帝国国制・統治のなかで、どのように考えることができるだろうか。

第13回：バーメン諸邦における「言語闘争」2

第14回：「ガリツィア王国」と「ポーランドの揺籃」：ポーランド分割によってハプスブルク君主国は「ガリツィア」を領有することになった。この「帝国境界」の支配が、帝国支配の確立にどのように作用したのかを考える。他方、ガリツィアは三分割されたポーランド諸地域のなかで、ポーランド・ナショナリズムが政治的・社会的・文化的にもっとも大きな達成をあげた場であった。帝国統治とナショナリズムとの関係を、バーメン諸邦と比較しながら考える。

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

毎授業時のコメント（10点x4日）と最終レポート（2000字から4000字程度、60点）

9. 教科書および参考書：

1. Breuilly, John, Nationalism and the state, University of Chicago Press, 1994.
2. Brubaker, Rogers, Nationalism Reframed. Nationhood and the national question in the New Europe, Cambridge U.P., 1996
3. Brubaker, Rogers, Ethnicity without Groups, Cambridge/Mass., 2004.
4. Kohn, Hans, The Idea of Nationalism : a Study in its Origins and Background, New York, 1960.
5. Hroch, Miroslav, Social Preconditions of National Revival in Europe. A Comparative Analysis of the Social Composition of Patriotic Groups among the Smaller European Nations, Cambridge U.P., 1985.
6. Hroch, Miroslav, Das Europa der Nationen. Die moderne Nationsbildung im europäischen Vergleich, Göttingen, 2005.
7. Judson, Pieter, The Habsburg Empire. New History, The Belknap Press of Harvard University Press, 2016.
8. Zahra, Tara, "Imagined Noncommunities: National Indifference as a Category of Analysis, Slavic Review, Vol. 69, No.1 (Spring, 2010).

ほか、授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：特記なし。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

特記なし。

科目名：比較文化史学特論 I / Comparative Studies of Cultural History (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔

コード：LM25203 科目ナンバリング：LGH-HIS616J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ユーラシア文化史特論 I】

1. 授業題目：ソ連現代史研究の諸問題
2. Course Title (授業題目)：Challenges in the study of Soviet Contemporary History
3. 授業の目的と概要：ソ連という国家が成立する契機となったロシア革命から 100 年以上経過したが、約 70 年にわたるソ連の歴史研究は、30 年前のソ連崩壊を契機に進展を遂げてきた。本授業ではソ連国内外におけるソ連史研究の歩みを振り返り、特にスターリン時代の極東地方に焦点をあて、その歴史を概観するとともに、今後の研究を展望する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：More than 100 years have passed since the Russian October Revolution formed the USSR in 1922. The Study of Soviet history, though it progressed over the first seven decades, advanced especially after its collapse 30 years ago. This course begins with tracing the history of Soviet Studies in and out of Russia for about a century, and focuses on the Soviet far eastern region of the Stalin era.
5. 学習の到達目標：1. ロシア国内外におけるソ連研究の歴史、現状を理解する。
2. スターリン時代のソ連極東地域の発展過程を理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Understand the history of Soviet Studies in and out of the Soviet union especially after the collapse of Soviet Union.
2. Understand the development process of the Soviet far East during the Stalin Era.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. ソ連時代のソ連史研究 1
 3. ソ連時代のソ連史研究 2
 4. ソ連崩壊後のソ連史研究 1
 5. ソ連崩壊後のソ連史研究 2
 6. ソ連極東とは アムール総督府時代
 7. ロシア革命とロシア極東 シベリア出兵 極東共和国
 8. 1920 年代のソ連極東 1.
 9. 1920 年代のソ連極東 2.
 10. 1930 年代のソ連極東 1. 満州事変とソ連指導部の対応、国防の要塞
 11. 1930 年代のソ連極東 2. 鉄道輸送と極東への動員
 12. 1930 年代のソ連極東 3. ダリストロイの形成 国境紛争
 13. 独ソ戦争時代のソ連極東 1.
 14. 独ソ戦争時代のソ連極東 2 1945 年の日ソ戦争と北方領土問題
 15. 第二次世界大戦後のソ連極東
 16. 総括
8. 成績評価方法：

レポート 50%、出席 50%
9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、授業の中で適宜、参考文献を紹介する。
10. 授業時間外学習：紹介する参考文献を読んでもくること。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
オフィスアワー 金曜日 16:00-17:00
事前にメールで連絡しておくこと。

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅰ／History of Ancient and Medieval Europe(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 火曜日 4講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LM12403 科目ナンバリング：LGH-HIS617J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：古代地中海世界史研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：中世ヨーロッパ史研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Medieval European History
3. 授業の目的と概要：中世ヨーロッパ史の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purposes of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research. Students are required to read and translate the text below, and also to write a report on medieval European history.
5. 学習の到達目標：さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、修士論文等作成にそなえる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
通常授業時間は、フランス語のテキストを、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。第一回目は打ち合わせ。以後は訳読と質疑応答。1ページを2回くらいで読む予定です。また学期末には、西洋史に関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。
8. 成績評価方法：
授業参加状況(50%)とレポート(50%)。
9. 教科書および参考書：
雑誌 Annales de Normandie の2019年1号に掲載された、Jean-Philippe Genet による、11世紀のイングランド・大陸関係を扱った論文を読む予定です。テキストは東北大学よりアクセス可能であり、その方法については初回に説明します。
10. 授業時間外学習：毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅱ／History of Ancient and Medieval Europe(Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LM22404 科目ナンバリング：LGH-HIS618J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：古代地中海世界史研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：中世ヨーロッパ史研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Medieval European History
3. 授業の目的と概要：中世ヨーロッパ史の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purposes of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research. Students are required to read and translate the text below, and also to write a report on medieval European history.
5. 学習の到達目標：さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、修士論文等作成にそなえる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
通常授業時間は、フランス語のテキストを、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。第1回目は打ち合せ、2回目から訳読と質疑応答、前期の続きを、1ページを2回くらいで読む予定です。また前期のレポートに関する発表会もおこないます。学期末には、西洋史に関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。
8. 成績評価方法：
授業参加状況 (50%) とレポート (50%)。
9. 教科書および参考書：
雑誌 Annales de Normandie の2019年1号に掲載された、Jean-Philippe Genet による、11世紀のイングランド・大陸関係を扱った論文を読む予定です。テキストは東北大学よりアクセス可能であり、その方法については初回に説明します。
10. 授業時間外学習：毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅲ／ History of Ancient and Medieval Europe(Advanced Seminar) III

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LM11304 科目ナンバリング：LGH-HIS619J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：西洋中近世史研究演習Ⅲ】

1. 授業題目：ヨーロッパ中近世史料研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Sources of Medieval and Early Modern European History
3. 授業の目的と概要：中近世史料の理解力を涵養することを目的とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of the course is to deepen understanding of sources of medieval and early modern history.
5. 学習の到達目標：中近世史料の高度な理解力を涵養する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of the course is to deepen understanding of sources of medieval and early modern history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
中近世史の史料について、その読解力の涵養および、先行研究から史料利用の可能性を学ぶことを、内容とします。第1回目の授業で具体的なテキストと進度について打ち合せし、それに基づいて2回目以降の授業をおこないます。
8. 成績評価方法：
授業参加状況による。
9. 教科書および参考書：
教室で指示します。
10. 授業時間外学習：予習および、特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅳ／ History of Ancient and Medieval Europe(Advanced Semina) Ⅳ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LM21303 科目ナンバリング：LGH-HIS620J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：西洋中近世史研究演習Ⅳ】

1. 授業題目：ヨーロッパ中近世史料研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Sources of Medieval and Early Modern European History
3. 授業の目的と概要：中近世史料の理解力を涵養することを目的とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of the course is to deepen understanding of sources of medieval and early modern history.
5. 学習の到達目標：中近世史料の高度な理解力を涵養する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of the course is to deepen understanding of sources of medieval and early modern history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
中近世史の史料について、その読解力の涵養および、先行研究から史料利用の可能性を学ぶことを、内容とします。第1回目の授業で具体的なテキストと進度について打ち合せし、それに基づいて2回目以降の授業をおこないます。
8. 成績評価方法：
授業参加状況による。
9. 教科書および参考書：
教室で指示します。
10. 授業時間外学習：予習および、特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：西洋近現代史研究演習Ⅰ／History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LM12305 科目ナンバリング：LGH-HIS621J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：欧米近現代史研究演習Ⅲ】

1. 授業題目： 欧米近現代史研究方法論
2. Course Title (授業題目)：History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)Ⅲ
3. 授業の目的と概要： 欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The themes of this seminar are to read classical books/documents relating the modern/contemporary European history, accurately and critically, and to find some hints for further historical research.
5. 学習の到達目標：・テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握
・文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・To grasp contents of the original text accurately.
・To upgrade the abilities to present, debate and reserch.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 2. テキストの検討・討論(1)a
 3. テキストの検討・討論(1)b
 4. テキストの検討・討論(1)c
 5. テキストの検討・討論(1)d
 6. テキストの検討・討論(1)e
 7. 小括(1)
 8. テキストの検討・討論(2)a
 9. テキストの検討・討論(2)b
 10. テキストの検討・討論(2)c
 11. テキストの検討・討論(2)d
 12. テキストの検討・討論(2)e
 13. 小括(2)
 14. 中間的総括に向けての課題の整理
 15. 中間的総括
8. 成績評価方法：
出席30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%
9. 教科書および参考書：
テキストは開講後発表。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。
10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。
研究室：文学研究科5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋近現代史研究演習Ⅱ／ History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LM22304 科目ナンバリング：LGH-HIS622J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：欧米近現代史研究演習Ⅳ】

1. 授業題目： 欧米近現代史研究方法論
2. Course Title (授業題目)：History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)Ⅲ
3. 授業の目的と概要： 欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The themes of this seminar are to read classical books/documents relating the modern/contemporary European history, accurately and critically, and to find some hints for further historical research.
5. 学習の到達目標：・テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握
・文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・To grasp contents of the original text accurately.
・To upgrade the abilities to present, debate and reserch.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 2. テキストの検討・討論(1)a
 3. テキストの検討・討論(1)b
 4. テキストの検討・討論(1)c
 5. テキストの検討・討論(1)d
 6. テキストの検討・討論(1)e
 7. 小括(1)
 8. テキストの検討・討論(2)a
 9. テキストの検討・討論(2)b
 10. テキストの検討・討論(2)c
 11. テキストの検討・討論(2)d
 12. テキストの検討・討論(2)e
 13. 小括(2)
 14. 中間的総括に向けての課題の整理
 15. 中間的総括

なお本授業はオンライン実施を基本とする。

8. 成績評価方法：
出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%
9. 教科書および参考書：
テキストは開講後発表。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。
10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。
研究室：文学研究科5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：比較文化史学研究演習 I / Comparative Studies of Cultural History (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔

コード：LM15404 科目ナンバリング：LGH-HIS623J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ユーラシア文化史研究演習 I】

1. 授業題目：ソ連史文献研究 I
2. Course Title (授業題目)：Reading texts of Russian and Soviet History I
3. 授業の目的と概要：ロシア・ソ連史に関するロシア語及び英語文献を読むことでロシア語及び英語の解読能力の向上をはかる。受講者が交代で、自分の研究分野に関する論文の要旨を発表し、それに関して出席者全員で議論する形で授業を進める。ロシア語に関しては、受講生のロシア語読解力のレベルに応じて、適宜テキストを選択する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：To improve the ability in reading Russian and English texts about Russian and Soviet history. In each class the person in charge will present the main points of the text and all of attendees will evaluate and discuss it.
Text selection depends on the level of the students.
5. 学習の到達目標：1. 研究文献を読むことにより、ロシア・ソ連史を研究するために必要なロシア語及び英語の読解力を高める。
2. 参考文献の探し方、引用の方法も同時に学ぶ。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Improve the ability to understand Russian and English by text reading.
2. Simultaneously to learn the practical method to inquiry and cite the References.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
担当となる受講者は、事前に自分の関心のあるテーマに関するロシア語または英語の論文を選び、受講者全員に配布するとともに、発表当日には要旨をまとめて参加者の人数分配布し、発表すること。以下、毎週同じ。
8. 成績評価方法：
授業への出席 (50%) と報告の内容 (50%) によって判定する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。
10. 授業時間外学習：発表の担当でない受講者も、事前に配布される論文を読み、議論に参加すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
オフィスアワー 金曜日 16:00-17:00
事前にメールで連絡しておくこと。

科目名：比較文化史学研究演習Ⅱ／ Comparative Studies of Cultural History(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 4講時

semester：2学期 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔

コード：LM25404 科目ナンバリング：LGH-HIS624J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：ユーラシア文化史研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：ソ連史文献研究 Ⅱ
2. Course Title (授業題目)：Reading text of Russian and Soviet History Ⅱ
3. 授業の目的と概要：前期と同じ
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：To improve the ability in reading Russian and English texts about Russian and Soviet history. In each class the person in charge will present the main points of the text and all of attendees will evaluate and discuss it.
Text selection depends on the level of the students.
5. 学習の到達目標：前期と同じ
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Improve the ability to understand Russian and English by text reading.
2. Simultaneously to learn the practical method to inquiry and cite the References.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
前期と同じ
8. 成績評価方法：
前期と同じ
9. 教科書および参考書：
前期と同じ
10. 授業時間外学習：前期と同じ
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
前期と同じ